

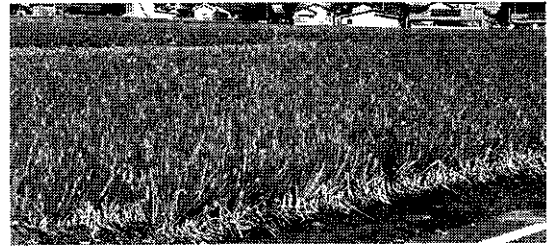
産地, 今(1)

リ レ 随 筆

埼玉県の野菜産地から —深谷ねぎと見玉ナス—

(埼玉県農業経営課 はしもとこうじ 橋本光司)

The Introduction of Vegetables—Producing District in
Saitama. By Koji HAsUMOTO
(キーワード：産地だより, 埼玉県)



深谷市藤沢地区におけるネギの栽培状況

埼玉県は全域が都心から100 km圏内に位置し、典型的な都市近郊農業が展開されているが、県内に700万余の人口を抱える農産物消費県でもある。1999年の農業粗生産額は約2,197億円で、部門別には野菜が41.9%と最も高い。本県だけの特長ではないが、都市化に伴って耕地面積、農家戸数および農業就業人口は減少の一途をたどり、生産者の高齢化と後継者不足の傾向は歴然としていて、当然ながら作目の変化や生産面にも大きな影響を与えている。加えて、近年は消費者の安全志向や環境に配慮した栽培方法を等閑視できない現状にあり、病害虫対策のあり方にもより一層の工夫が必要になっている。

ここには、本県の代表的な野菜であるネギおよびナスのブランド産地、ならびにトマト減農薬栽培への取り組み事例を、病害虫対応の視点から紹介したい。

1 「深谷ネギ」産地の現状

深谷市は県北部に位置し、利根川流域に広がる肥沃な野菜作中心地帯である。当市にはホウレンソウ、キュウリなど県を代表する作目も多いが、とりわけ、ネ

ギは過半の農家が栽培し、夏秋期には見渡す限りに濃緑のネギ畑が観望できる。ネギが商品として出回るようになったのは1890年代と言われ、地元篤農家によって改良されてきた甘味のある軟白ネギが人気を呼んで、大産地が形成されていった。現在、約800 haが1,000戸余の手によって栽培され、当市耕地面積の45%を占める。

作型は早春～春播き、秋冬どりが約80%、他に冬播き夏どりがある。連作または短期輪作が主体で、育苗床もネギ畑内に設置されることが多い。現在は泥付きでの出荷がほとんどなくなり、皮むき、箱詰めされたものが京浜市場を中心に、また、一部は東北、北海道などにも出荷されている。

当地に発生する病害虫は表-1のように総括され、とくに連作、排水不良、敷わら施用などが原因となる軟腐病、白絹病の被害が著しい。疫病、黒斑病、ネギアザミウマは晩春から盛夏にかけて例年多発するが、これらの病害虫は秋冷を迎えると確実に終息するので、冬期出荷される作型では余り重要視されていな

表-1 産地内における近年の病害虫の発生動向

発生型	「深谷ネギ」		「見玉ナス」	
	病害	虫害	病害	虫害
広域・常発・被害甚	軟腐病, 白絹病	—	青枯病	—
広域・突発・被害甚	さび病, 腐敗病 小菌核腐敗病	—	—	ミナミキイロアザミウマ
局地・常発・被害甚	黒腐菌核病	—	半身萎凋病	—
局地・突発・被害甚	萎縮病	シロイチモジョトウ, オオクロコガネ	褐色腐敗病	チャノホコリダニ, オオタバコガ
広域・常発・被害軽	疫病, 黒斑病	ネギアザミウマ, ネギハモグリバエ	うどんこ病	アブラムシ類, ハダニ類, マメハモグリバエ
広域・突発・被害軽	—	—	—	ミカンキイロアザミウマ, ハスモンヨトウ
局地・常発・被害軽	—	—	褐色円星病	—
局地・突発・被害軽	べと病	ネグニ, ハスモンヨトウ	根腐疫病	フキノメイガ